

WHO ファクトシート

血液の安全と活用

Blood safety and availability

2017年6月

重要な事実

- ・世界で集められた1億1250万件の献血の内、その約半分は世界人口の19%にあたる高所得国にて集められたものである。
- ・低所得国では、輸血の65%近くが5歳未満の子どもに対して行われる。反対に高所得国では、輸血のほとんどが65歳以上の人々に対して行われ全輸血量の約76%にのぼる。
- ・1000人当たりの数で見れば、高所得国での献血率は32.1、上位中所得国では14.9、低位中所得国では7.8、低所得国では4.6である。
- ・2008年から2013年にかけて、自発的な無償献血は1070万件増加した。全体では、74カ国では献血の90%以上を自発的な無償献血から得ている。しかしながら、71カ国ではその50%以上を家族やそれに代わる人、あるいは売血に依存している。
- ・報告のあった180カ国の内51カ国のみが自国で集めた血漿の成分精製によりPDMP血液製剤を生産している。PDMPすべてを輸入していると報告したのは全体で96カ国で、17カ国は報告期間中にPDMPの使用はなかったとし、16カ国は質問に無回答であった。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Blood safety and availability ファクトシート原文は [こちら](#)